

記事タイトル：「ヨーロッパな2日目」 2024年1月6日 1年3組 大野貴陽

長い長いフライトを経てアイルランドに到着したのは2日目の0時を回ったあとでした。不運にもダブリンでロストバゲージに遭い、着替えすらない不安な幕開けとなった2日目はアイルランド南部の町ウォーターフォードとキルケニーを訪問しました。キルケニーではキルケニー城を訪れ、その歴史や内部の構造、イングランドとの関わりについての説明を受けました。キルケニー城は壁の一部がすでに取り除かれており、他の城と比べるとやや変な形をしていると思います。城の内装は豪華絢爛で、まさにヨーロッパ(!)というべき天蓋付きのベッド、きらびやかなシャンデリアと見どころ満載でした。前述の通り、ロストバゲージに遭ったので、キルケニーでの1時間の自由時間は、もっぱら当面の衣類調達に当てられました。現地担当のノエルに教えてもらい、僕は友達とPENNEYS(アイルランドの衣料チェーン店で、色んな街に展開している)というお店に行き、衣類を調達。キルケニーの街は高い建物が無く、道の両脇に店がずらりとならぶヨーロッパ仕様。お土産を見ながらの街歩きはとても新鮮で楽しかったです。



番外編① ホストファミリーの三兄弟を簡単に紹介！

今回ステイさせてもらった家には成人済みの三兄弟がいました。全員がラグビー経験者で、かなりの大柄でした。そんな個性あふれる三兄弟を紹介します。

◎ジェイソン(32)

この家の長男にして一番の巨軀の持ち主。現役でラグビーをしており、Athy RFC の2nd チームでプレーしています。物静かだけどユーモアな一面もあり、ホストマザーの帰りが遅いときは鼻歌を歌いながら夕食を用意してくれました。

◎デイビッド(30)

三兄弟唯一の実家住まいで、黒と緑のニット帽がトレードマーク。一番顔を合わせるけど一番口数が少なく、夜は部屋でゲームかスポーツ観戦。フォートナイトをやったり、アメフトやサッカーの試合を見たりしていました。食べるのがめっちゃくちゃ早い。

◎コナー(27)

ホストマザーから「crazy son」と言われるほど、上の2人とは異なり、常にハイテンション。いきなりホストマザーにちょっかいをかけたり、四つん這いになって愛犬とじゃれあったりと、とにかく自由で愉快でフレンドリーな末っ子。

番外編② 同じステイ先のスペイン人のヴィクター君(15)を簡単に紹介！

僕が到着してから2日後の月曜日に、スペインからやってきたヴィクター君は、茶髪にメガネがトレードマークの男の子です。英語が流暢で、気さくに話しかけてくれ、日本の学校や日本の文字に興味津々でした。彼は熱狂的なアトレティコ・マドリードサポーターとのことで、ある夜、一緒にリアル・マドリードとのマドリード・ダービーを観戦しました。120分にも及ぶ熱戦は、最終的に5-3でリアルに軍配が上がりましたが、ヴィクターとサッカーについて熱く語り合う事ができ、スポーツは世界共通の話題であることを実感しました。ヴィクターは無類の映画好きでもあり、夕食後には一緒に「Risky Business」や「The Transporter」を観ました。僕が日本に帰る前の日も、マドリード・ダービーを一緒に観戦。滞在中二度目のマドリード・ダービーはまたしても120分に及ぶ熱戦の末、アトレティコ・マドリードが勝利！ゴールが決まるたびに、ハイテンションなヴィクターと抱き合っていました。共通の話題を持つ素晴らしい友人ができたと思います。



4

一番左がヴィクター君。彼のスペイン人の友人たちと撮った写真